

## 多賀城市立多賀城八幡小学校

2014年 12月 15日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)

北林 雅洋(香川大学教育学部)

### 【文献】

(1)「子どもの命は守られたのか」教見隆生編著(2011)かもがわ出版

### 【場所】

海岸から約1.5km、七北田川から約200mの位置にある。

住所:宮城県多賀城市八幡六貫田172番地

### 【東日本大震災による被害】

津波により校庭が浸水。



### 【震災当日の様子】

地震が起こった時、学校では授業中で揺れが収まった後に雪の降り始めた校庭へ避難した。数分後、全校児童の無事を確認し、すぐに保護者への引き渡しが始まった。しかし、雪が激しさを増したため、児童をブルーシートの下、次にテントの中、その後学童保育の建物と移動させた。すると、「津波だ！校舎内に逃げろ！」という声が出て、教職員が南方面を見ると仙石線の線路を越えて水が流れてきているのを確認した。急いで全員が校舎内に避難した。その頃には地域住民も避難しており、児童・保護者も含めて約350名が校舎内に避難していた。その内引き渡しの終わっていない児童は50名ほどであった。津波の水はあっという間に学校敷地の周囲を埋め尽くし、校庭にもじわじわと水が入り込んできた。停電も起こっており、電話も不通、携帯電話も日没頃にはほとんど通じない状態になり、学校は陸の孤島となった。一夜を学校で過ごし、翌朝には水が引いたため、津波の到達しなかった安全な避難所へ移動し、児童はその日の内に全て保護者へ引き渡された。(1)

### 【調査して言えること】

海からは約1.5km離れているが、学校の標高は3mほどで、近くに200mほどの距離で川も流れているため、地震の際に津波を警戒する必要がある学校である。学校の敷地は嵩上げされており、そのため今回の津波では校舎が浸水することは免れた。しかし、標高が低いことには変わらず津波の被害が発生する恐れのある学校である。学校の近くに高台や高い建物は無いため、学校外への避難は難しい。



南から見た学校(2014/11/3撮影)



学校敷地南側の一角(2014/11/3撮影)  
※フェンスの中が学校の敷地である。  
周囲の土地よりも嵩上げされていることが分かる。